

令和7年度第4回全国健康保険協会徳島支部評議会議事録

○日時：令和8年3月19日（木）14時00分～16時00分

○場所：全国健康保険協会 徳島支部 5階会議室

○出席評議員（五十音順 敬称略）

牛田聡史	日亜化学工業株式会社総務人事本部給与厚生センター センター長
北島一人	徳島県商工会壮青年部 部長
孝志茜	さくら税理士法人 公認会計士
中内美香	徳島県国民健康保険団体連合会保険者支援課 課長
平井松午	徳島大学 名誉教授
古谷京一	徳島文理大学 総合政策学部教授

○議事次第

- 1 令和8年度 徳島支部 健康保険料率について
- 2 令和8年度 徳島支部 事業計画について

○議事内容要旨

1. 令和8年度 徳島支部 健康保険料率について
事務局より資料1-1～資料1-5に基づき説明し、ご意見をいただいた。
2. 令和8年度 徳島支部 事業計画について
事務局より資料2-1～資料2-5に基づき説明し、ご意見をいただいた。

(主な議論の概要)

1. 令和8年度 徳島支部 健康保険料率について

【主な意見】

《学識経験者》

- ・子ども・子育て支援金は被保険者全員に賦課されることについて丁寧な周知が必要。
- ・平均保険料率については、プロセスがはっきりしないまま引き下げが実施された、と全国の評議員も同様の意見が多い。積み上げてきたものが一瞬で変わるのはどうなのかと思う。平均保険料率を見ると、ある程度の幅におさまっているの、一律に設定して、年金のように物価スライドにするのも方策ではないか考える。
- ・各支部が削りあいをするのではなく、平均と大きく乖離した支部について特別な対策をとるとか経営資源を集中することもあっていいのでは。協会けんぽとして方向性を決めていく時期ではないかと思う。

《事務局》

- ・意見の通り過渡期と把握している。国庫補助も含めて平均保険料率をどうしていくのか運

営委員会を中心に、見直しの基準などの協議がなされていくと考える。今回の平均保険料率の引き下げについては、十分な意見交換の時間がなかったが、これからは協議の進捗とともに議論できると考える。

《事業主代表》

- ・保険料率の議論をした時から物価高、戦争など外部環境が大きく変わっている。保険料率が下がる要素が見つからない。医療機関も収益は厳しいと聞いている。人件費、医療費など今後不安要素がある。将来が不安だ。様々なケースを想定して全体強化の視点で対応してほしい。
- ・介護保険、子ども・子育て支援金についてはしっかり広報すべき。制度理解がないと違う方向にすすむ。

《被保険者代表》

- ・子ども・子育て支援金とあるが、被保険者全員からの徴収となるので、その理解のための広報が必要。
- ・健康保険料率については、意見はない。子ども・子育て支援金について、周知広報を行うとのことだが、具体的な広報計画はあるのか。

《事務局》

- ・保険料率の改定パンフレットに支援金率を記載している。二次元コードも掲載し、こども家庭庁のHPへ案内する等の広報を実施している。電話での問い合わせには職員が対応している。

2. 令和8年度 徳島支部 事業計画について

【主な意見】

《事業主代表》

- ・健康保険委員について、委嘱後の活動はどのようなものがあるか。

《事務局》

- ・協会と加入者のパイプ役という位置づけだが、規則的なものは決まっておらず、今後、どういった協力をしていただけるか検討を進めていく。現在は、登録していただいたうえで、健康情報誌を従業員に回覧や研修会への参加、健康事業所宣言にエントリーしていただくなどのご協力をお願いしている。

《事業主代表》

- ・今後は協会以外の力が必要。健康保険委員に対してして欲しいことを周知していくべき。できる、できないはあるかもしれないが、推進してくれる事業所もあると思うので、活動の充実を図っていくべき。

- ・ SNS を活用することはどうだろうか。もう少しだけたようにして、SNS を利用する層の幅を広げることも考えてみる必要がある。

《学識経験者》

- ・ 保険者機能の強化として、医療費適正化を進めているところと思うが、メインは、健康づくり事業と考える。データ分析はある程度進んでいるので、そのファクターにあったアプローチをするべき。加えて、関係機関に協力を得ていくことが必要。協会ができないことを明確にして、助けていただければいい。協会けんぽ単独では限界があるので、県・事業所等との協力は必要。
- ・ ジェネリック医薬品の使用割合について、80 パーセントから 1 パーセント上げるのと、0 パーセントから 1 パーセント上げるのでは難易度が全然違う。事業実績として簡単に上げることができるものをどんどん上げて行ってほしい。難しいものにそこまで時間とお金をかけるべきではないのでは。
- ・ コストも含め、効果性を意識して、医療費を下げる要素として効果が出やすいものを選別して、事業の設計図を作っていくことが必要。

《事務局》

- ・ 事業の選択と集中は必要と考えている。ジェネリック医薬品使用率は 85 パーセントを超え、全国平均も 89 パーセント。加入者の方にも浸透してきている。次は金額ベース。そしてバイオシミラーの周知と考えている。これに関しては医療機関にご協力いただくのが必要不可欠なので、現在、主要な医療機関に訪問して、使用状況やどういった情報が必要かヒアリングしている。
- ・ 健診の受診率が低いが、指導率は高い。協会の保健師の指導力は高いと考えているので、後はいかに健診を受診いただいて、保健指導につなげていけるかが重要になっている。そのためにも、市町村とも連携していくことも、長い目で見れば、後期高齢まで考えておくことが必要と考える。若い世代から健診を受けていただいて、健康意識を持ってもらいたいが、入口の一步をどうしていくかで悩んでいる状況。そこについてご意見いただきたい。

《学識経験者》

- ・ 大学の健康診断と比べると、とても健診項目が充実している。「他よりも充実している」というところをもっとアピールしていくべきなのでは。事業所・被保険者に他よりも充実しているという他との差別化の発信をしていくことも重要だと思う。

《被保険者代表》

- ・ 健診について、医療機関によって対応が異なると思うが、健診の結果が事業所に直接届くのが嫌という人もいるのかもしれない。その中で、けんぽアプリができたのはとてもいい。けんぽアプリで予約できるのもいいし、結果もけんぽアプリで確認できるものよい。
- ・ 事業所としては、予約一覧や、健診の結果一覧（簡易的なもの）が協会から提供されるとうれしい。健診結果も細かい数字までは必要ないが、健診を受けたかどうかの一覧の提供

があるとありがたい。本人に確認する手間も省ける。

《事務局》

- ・今後もさらにバージョンアップしていく予定なので、ご意見は大変ありがたい。

《被保険者代表》

- ・協会けんぽの健診を受けると、充実した保健指導を受けられるというのをもっとアピールしてもいいのでは。また、健診を受けられないと思っている人もいるので、広く周知が必要。特に協会は加入者の幅が広いので、様々な広報を展開して欲しい。
- ・人間ドッグの費用補助が始まると、受診者は増えると想定するが、胃カメラの予約が取りにくい。予約が取りにくいことが不安要素。県内の該当機関も少ないので取り合いになることも予想される。

《事務局》

- ・バリウムの人気がなく、胃カメラが予約の争奪戦であるのは事実。人間ドッグは胃カメラも含めた健診になるので、人間ドッグのほうが予約を取りやすくなるのではと考えているが、徳島支部が契約している人間ドッグ対応機関が10機関しかないので、そこに集中してしまうと予約が取りにくくなるかもしれない。

《学識経験者》

- ・電子申請について、進捗状況がわかるのがメリットと感じた。現在の電子申請の利用状況はどうなのか。また、電子申請の利用を促進する動画などはないのか。

《事務局》

- ・電子申請の利用率は全国5% 徳島4%。R8は20%の電子申請利用を目標にしている。動画作成について本部へ照会したが、現在のところ作成予定はないとのこと、今後も本部に要望する。

《学識経験者》

- ・マイナ保険証の切り替えは電子でできたそうだが、私は怖くて書類で申請した。スマホに個人情報格納することにまだ不安感がある。「100%安心」は難しいと思うが、安全性の確保が重要。結局何がデータとして共有されるのかを明確にすることが普及につながると思う。何かと同意するかどうかの質問が、すごく不安。

《学識経験者》

- ・電子申請については、事業所へより個人への周知が重要となる。説明資料として紙は理解しにくい。YouTubeなどの動画のほうがわかりやすいので、利用を進める動画を作成したほうがいい。

《事業主代表》

- ・ 健診の制度が複雑なので、制度設計の見直しが必要。充実している生活習慣病予防健診を強制にしたらい。医療費の増加については、子供の医療費は無料なので、医療費を使っている意識が希薄になっていると感じる。一部医療費の負担があってもいいのではと考える。

以上

次回評議会開催日程

- 日 程： 令和 8 年 7 月
- 場 所： 徳島支部会議室
- 議事内容予定： 未定